

第229回企画展示

石の文化

— 祝日本遺産認定 —

滝ヶ原アーチ石橋群「東口橋」



期日：平成28年6月1日～7月28日

会場：石川県立図書館 3F 閲覧室

石川県立図書館

展示によせて

本年 4 月『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」は、平成 28 年度「日本遺産(Japan Heritage)」に認定されました。

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用して発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

小松の人々は、弥生時代の碧玉の玉づくりを始まりとし、2300 年にわたり様々な石の資源を見出し、時代のニーズに応じて、人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を築き上げてきました。

今回の展示では、小松の「珠玉と歩む物語」のストーリーを、図書館資料を見ながら、一緒にたどっていきたいと思います。さらに、若干ですが、国内外の石の文化に関する資料も集めてあります。

どうぞお楽しみください。

平成 28 年 6 月 1 日

石川県立図書館

【展示資料 1】

I 小松ブランドの誕生

<八日市地方遺跡の管玉>

八日市地方遺跡は、今から 2400 年前の弥生時代の集落跡です。ここでは、緑の石を材料にした管玉の製作が盛んに行われていました。材料の石は小松市から加賀市にかけての山間部で採取されるもので、緑色をした凝灰岩の一種です。製作される管玉は、主に直径約 2mm の円筒形で穴は直径約 1mm と、精密な加工技術がうかがわれるものでした。

1. 八日市地方遺跡―地中から今、弥生時代が甦る―

石川県小松市教育委員会埋蔵文化財調査室編集 石川県小松市教育委員会 2006.11
(K202.5/1449)

2. 八日市地方遺跡 2[第 2 分冊]第 3 部製玉編 第 4 部木器編

石川県小松市教育委員会編集 石川県小松市教育委員会 2014.3(K202.5/1235/2-2)

<献上された腕飾り>

古墳時代になると、緑色の石材で作られた腕輪などの宝飾品がヤマト王権の大王や各地の王を魅了するようになり、中でも菩提・滝ヶ原産の石材が高いシェアを占めていました。加賀市片山津には、緑色凝灰岩による大規模な玉生産が行われていた、玉造遺跡が発見されています。

3. 加賀市片山津玉造遺跡

石川県教育委員会 石川県埋蔵文化財センター 2002.3(K202.5/1157)

4. 加賀片山津玉造遺跡の研究

大場磐雄編 加賀市教育委員会 1963.4(K202.5/7)

<河田山古墳の石垣構築>

古墳時代終末期 7 世紀頃築造の河田山古墳の第 12 号墳は、切石積の横穴式石室を埋蔵施設とし、天井部がアーチになっています。アーチ形天井は、国内に類例のない珍しいもので、朝鮮半島西南部の古墳に見られます。有名なものでは、武寧王のための王陵があります。

5. 切りぬきと、資料で見る河田山古墳群と国府台

高曾外[編] 高曾外 2009.9(K202.5/1546)

6. 河田山古墳群史跡資料館[施設案内]

河田山古墳群史跡資料館

7. ドライブ紀行いしかわ遺跡めぐり 加賀編

橋本澄夫著 北国新聞社 1998.4(K202.5/318/3)

8. 武寧王陵(韓国美術シリーズ 1)

金元竜著 近藤出版社 1979.8(702.2/74/1)

II 小松城の石垣と滝ヶ原の石屋

<小松城の石垣>

加賀藩三代藩主前田利常は、寛永 16 年(1639) 隠居の地を小松とし、小松城を再興する城造りを開始し

ました。本丸櫓台石垣は「切り込み接ぎ（切込ハギ）」という方法で積まれています。『新修小松市史 資料編 1 小松城』では、「角閃石安山岩（戸室石）と角礫凝灰岩（小松市山谷～観音下産出）」を二対八の割合で混用した亀甲くずしの伐合積」と表現されています。

◇石垣の分類◇

野面積	自然石またはほとんど加工していない石を積み上げた石垣。西国では鎌倉末期から、全国では16世紀に普及。
打込ハギ	石を槌でたたいて形を整えて、石垣の外側部分だけを平らに加工する。さらに槌で石の角をたたき、合端といわれる合わせ部分をつき合わせやすくして積み上げた石垣。石と石との間にできた隙間は小さな石で埋める。文禄・慶長年間（1592～1615）に発達した技術。
切込ハギ	打込ハギをさらに石の表面をノミで削って平らにしたもの。これは石垣本来の機能には関係のない装飾。積みあがった景観から、整層積、布積、亀甲積などがある。

（『城郭の見方・調べ方ハンドブック』参考文献6より作成）

9. よみがえる日本の城 8 金沢城 福井城（歴史群像シリーズ）

学研 2004.11 (K391/1022)

「浮城とも呼ばれた前田利常の隠居城小松城」

10. 小松城

小松市立博物館編 小松市立博物館 1987.10 (K069/9/87)

11. 新修小松市史 資料編 1 小松城

新修小松市史編集委員会編 小松市 1999.3 (K226/1001/2-1)

「本丸櫓台石垣の岩質石組」

<滝ヶ原の石屋>

小松市滝ヶ原町に産する滝ヶ原石は石英粗面岩質凝灰岩で、石質は緻密で、雨・雪・塩害への耐久力が強く、彫刻に適した硬度を有していることから、墓碑・燈籠・神馬・仏像・鳥居等の加工技術が発達しました。滝ヶ原石の加工技術は、文化11年（1814）頃、現福井県足羽山産の「笏谷石（しゃくだにいし）」から招来したものと伝えられています。

12. 原色日本の石 産地と利用

造園計画研究所企画編集 飯島亮・加藤栄一著 大和屋出版 1978 (A458.9/4)

「滝ヶ原石」

13. 小松市滝ヶ原町調査報告書

川良雄編 小松市立博物館 1970.2 (K226/23)

14. 職人の技

小松市立博物館編 小松市立博物館 1992.10 (K069/9/92)

「石屋」

15. 絵図大工百態

新建築社 1974 (525.5/11)

『人倫訓蒙図彙』石切りの図」

Ⅲ 那谷寺

前田利常は、多くの普請・作事を行いましたが、その中には天正期（1573～1592）に荒廃していた那谷寺もあり、堂宇が造営されて再興されました。現在、参道を進むと左手に池があり、その向こうには奇岩遊仙境と呼ばれる奇石群があります。岩肌に穿たれた岩窟は、かつて修験道の行者が修行に打ち込んだ場所と考えられています。元禄2年（1689）8月那谷寺を詣でた松尾芭蕉は、「石山の石より白し秋の風」という句を詠んでいます。

16. 探訪日本の古寺 4 東海・北陸

小学館 1981.10 (K185/73)

17. 那谷寺／妙成寺 加賀前田家ゆかりの北陸の古刹

デアゴスティーニ・ジャパン 2012.7 (K185/1038)

18. 真言宗別格本山那谷寺

北国出版社 1970 (K185/39)

19. 那谷寺誌

和田文次郎編 和田文次郎 1897.5 (K185/33)

20. 加能真言天台集

加陽探花房主人編 探花房 1937.2 (K186.7/4)

「自生山那谷寺如意輪観音」

※那谷寺略縁起には、花山法皇が「三国伝来閻浮檀金御長一寸八歩の如意輪観音」を奉納して、国家の勅願所とした、とあります。

Ⅳ 九谷陶石と小松の鋳山

<九谷陶石>

江戸時代初期にあった「古九谷」の時代から約100年の空白時代を経て、19世紀初め頃加賀の各地で多くの窯が誕生し、再興九谷と呼ばれました。中でも代表的な若杉窯は、若杉村の十村役林八兵衛が開窯し、肥前島原の本多貞吉の技術指導のもと製陶したものです。また、貞吉は、現在の九谷焼にも用いられている、花坂村の陶石も発見しています。その後明治から大正にかけて海外へ輸出された九谷焼は「ジャパングタニ」と呼ばれ、世界的なブームとなりました。現在市の施設となっている「松雲堂」も、これらの窯元のひとつでした。

21. 九谷もジャパンである

北國新聞社編集局編著 時鐘舎 2009.3 (K751/1049)

22. 黎明 加賀百万石藩窯若杉窯陶石発見物語

正和久佳著 郷土史料研究所 2008.3 (K751/1047)

23. 開窯二百年記念展～今に繋がる再興九谷の源泉～若杉 平成17年度特別展

小松市立博物館編集 小松市教育委員会 2005.9 (K069/9/005)

24. 花坂陶石調査研究報告書

石川県工業試験場編 石川県工業試験場 1974 (K459/2)

25. 陶工松雲堂左瓶

松本佐太郎著 松本佐太郎 1924.9 (K751/3)

<小松の鉱山>

小松には、江戸時代に金を採掘していた金平鉱山、明治・大正期に銅を採掘していた遊泉寺鉱山、明治期から昭和に至るまで銅・鉛・亜鉛などを採掘していた尾小屋鉱山などの鉱山がありました。遊泉寺鉱山用機械修理部門の鉄工所は現在のコマツ（株式会社 小松製作所）創設へとつながっていきます。

26. 新修小松市史 10 図説こまつ歴史

新修小松市史編集委員会編集 小松市 2010.12 (K226/1001/2-10)

「金平鉱山の賑わい」

27. 銅に咲く華 尾小屋鉱山写真集

北幸作編 北幸作 1982.3 (K560/25)

28. MADE IN AWAZU コマツ栗津工場 70 周年記念誌

コマツ栗津工場 70 周年記念誌編集プロジェクトチーム編 コマツ栗津工場 2008.5 (K335/1038)

「コマツ発祥の地」

【展示資料 2 パネル展示】

1. 「北国新聞」2016 年 5 月 12 日 “日本遺産に認定「珠玉と歩む物語」小松”
2. 「広報こまつ」号外 小松市 2016.5 “「珠玉と歩む物語」小松日本遺産認定”
3. 「広報こまつ」1099 号 小松市 2013.8 “特集古代こまつロマン”
4. 小松市教育委員会ホームページ「小松市の文化財」「滝ヶ原アーチ石橋群”
5. 尾小屋鉱山資料館ホームページ“鉱山の歴史概要”
6. 文化庁ホームページ“平成 28 年度「日本遺産 (Japan Heritage)」認定一覧”

(参考文献)

1. 『八日市地方遺跡－地中から今、弥生時代が甦る－』石川県小松市教育委員会埋蔵文化財調査室編 石川県小松市教育委員会 2006.11
2. 『広報こまつ』1099 号 特集古代こまつロマン 小松市 2013.8
3. 『新修小松市史 10 図説こまつ歴史』新修小松市史編集委員会編集 小松市 2010.12
4. 『ドライブ紀行いしかわ遺跡めぐり 加賀編』橋本澄夫著 北国新聞社 1998.4
5. 『新修小松市史 資料編 1 小松城』新修小松市史編集委員会編 小松市 1999.3
6. 『城郭の見方・調べ方ハンドブック』西ヶ谷恭弘編著 阿部和彦著 大橋健一著 東京堂出版 2008.6
7. 『那谷寺／妙成寺 加賀前田家ゆかりの北陸の古刹』デアゴスティーニ・ジャパン 2012.7
8. 『大聖寺藩史談』太田敬太郎校合・解説 石川県図書館協会 1971.2
9. 『職人の技』小松市立博物館編 小松市立博物館 1992.10
10. 『若杉窯』小松市立博物館編 小松市立博物館 1996.10
11. 『MADE IN AWAZU コマツ栗津工場 70 周年記念誌』コマツ栗津工場 70 周年記念誌編集プロジェクトチーム編 コマツ栗津工場 2008.5
12. 「珠玉と歩む物語」小松(こまつ石の物語 c2016) (<http://www.komatsuguide.jp/komatsu-stone/> 確認日:2016-05-23)
13. 「松雲堂」の歴史(小松市) (<http://www.city.komatsu.lg.jp/9859.htm> 確認日:2016-05-23)

【展示資料3 小松の石文化を知る資料】

※貸出できます。

No.	書名	著者名	出版者	出版年	請求記号
1	職人の技	小松市立博物館 // 編	小松市立博物館	1992. 10	K069/9/92
2	若杉窯	小松市立博物館 // 編	小松市立博物館	1996. 10	K069/9/96
3	真言宗別格本山那谷寺		北国出版社	1970	K185/39
4	加賀市片山津玉造遺跡	石川県教育委員会 // [編]	石川県教育委員会	2002. 3	K202. 5/1157
5	八日市地方遺跡 2[第2分冊]第3部製玉編 第4部木器編	石川県小松市教育委員会 // 編集	石川県小松市教育委員会	2014. 3	K202. 5/1235/2-2
6	八日市地方遺跡	石川県小松市教育委員会埋蔵文化財調査室 // 編集	石川県小松市教育委員会	2006. 11	K202. 5/1449
7	ドライブ紀行いしかわ遺跡めぐり 加賀編	橋本/澄夫 // 著	北国新聞社	1998. 4	K202. 5/318/3
8	新修小松市史 資料編1	新修小松市史編集委員会 // 編	小松市	1999. 3	K226/1001/2-1
9	新修小松市史 10	新修小松市史編集委員会 // 編集	石川県小松市	2010. 12	K226/1001/2-10
10	MADE IN AWAZU	コマツ粟津工場70周年記念誌編集プロジェクトチーム // 編集	コマツ粟津工場	2008. 5	K335/1038
11	よみがえる日本の城 8		学研	2004. 11	K391/1022
12	小松市の文化財	小松市文化財調査委員会 // 編集	小松市教育委員会	2001. 3	K709/1009
13	黎明	正和/久佳 // 著	郷土史料研究所	2008. 3	K751/1047
14	九谷もジャパンである	北国新聞社編集局 // 編著	時鐘舎	2009. 3	K751/1049
15	日本の戦争遺跡	戦争遺跡保存全国ネットワーク // 編著	平凡社	2004. 9	210. 6/10127
16	若狭と越の古墳時代	入江/文敏 // 編	雄山閣	2013. 5	214/10011
17	「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業論文集 第14回(平成21年度)		北陸建設弘済会	2010. 5	601. 1/10222/14

【展示資料4 世界と日本の石文化】

※貸出できます。

No.	書名	著者名	出版者	出版年	請求記号
1	太陽と巨石の考古学	ジョン・アイヴィミ // 著	法政大学出版局	2009. 7	202. 5/10062
2	世界石巡礼	須田/郡司 // 著	日本経済新聞出版社	2011. 5	202. 5/10069
3	世界の古代遺跡	アンリ・スティルラン // [編]著	創元社	2006. 12	209. 3/10045
4	日本石巡礼	須田/郡司 // 著	日本経済新聞出版社	2008. 10	210. 025/10370
5	図説フリーメイソン	吉村/正和 // 著	河出書房新社	2010. 8	361. 6/10110
6	石の文化史	M. シャックリー // 著	岩波書店	1982. 3	458. 9/5
7	石ころ博士入門	高橋/直樹 // 著	全国農村教育協会	2015. 5	458/10010

No.	書名	著者名	出版者	出版年	請求記号
8	鉱物・岩石紳士録	松原/聰 監修	学研教育出版	2010. 9	459/10025
9	石垣	田淵/実夫 著	法政大学出版局	1979	513. 3/9
10	日本の木の橋・石の橋	村瀬/佐太美 著	山海堂	1999. 4	515. 02/10005
11	世界の橋	David J. Brown 著	丸善	2001. 3	515. 02/10008
12	橋の文化史	ベルト・ハインリッヒ 編著	鹿島出版会	1991. 6	515. 02/8
13	橋	小山田/了三 著	法政大学出版局	1991. 9	515. 02/9
14	石橋は生きている	山口/祐造 著	葦書房	1992. 6	515. 3/10
15	石は語る 建築は語る	渡辺/真弓 文	ほるぷ出版	1983. 5	52/7
16	城郭の見方・調べ方ハンドブック	西ヶ谷/恭弘 編著	東京堂出版	2008. 6	521. 8/10408
17	江戸築城と伊豆石	江戸遺跡研究会 編	吉川弘文館	2015. 5	521. 82/10009
18	チベット寺院・建築巡礼	大岩/昭之 著	東京堂出版	2005. 9	522. 2/10007
19	インド古寺案内	神谷/武夫 著・写真	小学館	2005. 7	522. 5/10002
20	大聖堂ものがたり	アラン・エルランド=ブランダンブルグ 著	創元社	2008. 3	523. 04/10008
21	図説西洋建築の歴史	佐藤/達生 著	河出書房新社	2005. 8	523/10007
22	石の匠	塚本/嘉一 著	MBC21	1998. 2	525. 5/10006
23	石垣を積む	佐藤/武 著	東京新聞出版局(制作)	1999. 8	525. 5/10014
24	世界の銘石	インデックス 編著	鎌倉新書	2003. 9	569. 8/10002
25	石材の基礎知識	服部/仁 著	石文社	2014. 3	569. 8/10008
26	石造文化	日本石造文化学会 編	日本習字普及協会	2002. 7	714/10002
27	石造物が語る中世職能集団	山川/均 著	山川出版社	2006. 8	714/10007
28	石との対話	矢内原/伊作 文	淡交新社	1966	714/10012
29	石造物の研究	藤澤/典彦 編	高志書院	2011. 8	714/10013
30	供養をかたちに	山川/均 著	石文社	2014. 3	714/10017
31	歴史のなかの石造物	山川/均 著	吉川弘文館	2015. 8	714/10018
32	石物語	野村/義照 著	ビジョン企画出版社	1992. 9	714/12
33	肥後の石工	今西/祐行 作	岩波書店	2001. 2	90/イ/078
34	大聖堂 上・中・下	ケン・フォレット 著	ソフトバンククリエイティブ	2005. 12	933. 7/11713/1-1~1-3

第 229 回企画展示

「石の文化－祝日本遺産認定－」

平成 28 年 6 月 1 日

編集 石川県立図書館展示委員会

発行 石川県立図書館